

令和7年度 西成区区政会議 第2回にぎわい部会 会議録

1 開催日時 令和7年7月28日（月曜日） 14時から15時20分まで

2 開催場所 西成区役所4階 4-5・7会議室

3 出席者の氏名

【区政会議委員】

小林 大悟議長、伊藤 由佳委員、上田 假奈代委員、庄野 秀次委員、
高橋 裕二委員、宮本 浩委員

【市会議員】

辻 淳子市会議員

【西成区役所】

稲嶺 一夫（区長）、三原 桃子（副区長）、森 浩一（保健福祉担当部長）、得能 邦彦
（総務課長）、式地 光雄（総合企画課長）、宇野 新之祐（まちづくり推進担当課長）、北
野 陽一（市民協働課長）、原 結花（保健福祉課長）、横山 伸征（福祉担当課長）、森 賀
代（区政推進担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

- （1）身近なテーマでの議論について
- （2）令和7年度西成区運営方針の取組について

5 議事内容

【森区政推進担当課長代理】

それでは、定刻でございますので、ただいまより令和7年度西成区区政会議第2回にぎわい部会を開催いたします。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席をたまわり誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めます西成区役所総務課課長代理の森でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それではまず会議に先立ちまして事前に送付させていただきました会議資料の確認をさせていただきます。

まず、令和7年度西成区区政会議第2回にぎわい部会次第でございます。

次に、令和7年度西成区区政会議委員にぎわい部会名簿です。

次に、資料1の1、区政会議の議論のテーマについてです。

次に、資料1の2、西成区の町会加入率の状況です。

次に、資料1の3、西成区の全体人口及び外国人人口の推移の資料です。

次に、資料2の1、令和7年度西成区運営方針です。

次に、資料2の2、令和7年度西成区運営方針の補足説明資料となっております。

最後に意見書です。

本日、紙資料として委員の皆様には机の上に区政会議に関するアンケートを置いております。後ほどご説明します。

以上でございますが不足等ございましたら挙手をお願いいたします。

それでは確認事項を何点か申し上げます。本日の会議につきましては条例の定める委員定数の2分の1以上の委員のご出席をいただいております。開催の要件を満たしていることをご報告します。次に、この会議は公開となっておりますのでご了承のほどよろしくをお願いいたします。また、区民の方々により区政会議を知っていただくため、本会議を録画したものをYoutubeにて公開いたします。ご理解のほどよろしくをお願いいたします。

なお、本会議は傍聴の方が3名来られていますのでご報告申し上げます。報道機関の取材はございません。

次に、会議中ご発言いただく際はマイクを使用しなるべくゆっくりはっきりと話していただきますようご協力をお願いいたします。確認事項は以上でございます。

それでは開催にあたりまして区長の稲嶺よりご挨拶申し上げます。区長よろしく申し上げます。

【稲嶺区長】

皆様、大変暑い中、第2回の区政会議に、ご参加いただきましてありがとうございます。連日猛暑が続いておりますので、皆様方大変かと思いますが、夏場になるといろいろな催し物もたくさんございます。体調に十分留意していただき、西成区の夏を楽しんでいただけたらと思っております。

今日はテーマが地域活動の新たな担い手ということで、これはかねてよりなかなか担い手がいないというお話がずっと続いておりました。今、大阪市の24区でも町会加入の促進を図ろうということで、各区さまざまな取組をしております。西成区も後ほど資料でも申し上げますけれども、大阪市の平均の加入率を大きく下回っているというところでございます。

ただ、これ24区ともそれぞれ町会加入の減少しているのは、随分差がありますし、またその要因分析もいろいろされております。西成区の特徴を踏まえながら、どういう形で地域の担い手を確保していくのか、また西成区のまちを活性化していくのか、そういったところが大きな問題かと思っておりますので、今日は皆様方からいろいろご意見頂戴できたらなと思っております。また、令和7年度今年度の運営方針につきましてもご説明させていただきますので、どうぞ忌憚（きたん）のないご意見を頂戴できたらと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

【森区政推進担当課長代理】

それでは次に委員の皆様をご紹介させていただきます。配布しております委員名簿をご覧ください。

伊藤委員でございます。

上田委員でございます。

小林委員でございます。

庄野委員でございます。

宮本委員でございます。

なお、高橋委員におかれましては少し遅れられているようですので後ほどご紹介いたします。本日、鈴木委員、福山委員、本家委員、宮尾委員におかれましては所用のためご欠席されております。

それでは次に区役所職員の紹介でございますが、職員につきましては配布しております名簿をご確認ください。それでは以降の議事進行は議長にお任せしたいと思います。小林議長よろしく申し上げます。

【小林議長】

はい、議事進めさせていただきます。皆様こんにちは。

お手元の次第に沿って進めてまいりたいと思います。まず、議題1の身近なテーマでの議論について、事務局より説明をお願いいたします。

【得能総務課長】

いつもお世話になっております。西成区役所総務課長得能でございます。それでは私の方より議題の1、身近なテーマでの議論につきましてご説明をさせていただきたいと思っております。座らせていただきます。

資料1の1をご覧ください。資料1の1ですね。こちらの方ですね、6月20日に開催いたしました第1回にぎわい部会の際に、皆様から頂戴いたしましたアンケート、このアンケートの結果を踏まえまして、本日の会議におきましては「地域活動の新たな担い手を確保」というテーマでご議論いただきたいと思いますと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、具体的な内容につきましては市民協働課よりご説明させていただきます。

【北野市民協働課長】

市民協働課長の北野でございます。よろしくお願い致します。

「地域活動の新たな担い手の確保」というテーマですが、どこの団体においても担い手不足という課題については皆さん悩んでおられる問題ではないかなというふうに思います。

地域活動に取り組んでおられる町会におきましても、その組織の担い手不足であったり、また、ふれあい喫茶や食事サービスをはじめ、地域での餅つき大会や、夏祭りなどにおける運営スタッフの人手不足などにも悩んでおられるところがございます。これらの課題に対しまして、まずはですね、地域で活動してもらおう町会加入者を増やすことであり、そのためには各種イベントに区民の皆様に参加してもらって、地域の取組であったり、良さを分かってもらうことが大切ではないかなというふうに考えております。その中でキーマンとなるのが若年層や子育て世帯、また近年急激に増加している外国籍住民の方々であり、これらの方々にいかに地域活動に参加してもらえるかということではないか、というふうに考えております。

ここで、大阪市や西成区における現状について、少しご説明をさせていただきたいと思
います。資料の方ですね、右上に資料1の2と書いている資料の方をご覧くださいと思
います。西成区におけます町会加入率の状況ということで、令和5年調査において、西
成区では町会加入世帯数は20,292世帯、町会加入率は30.6%となっており、大阪市平均
46.4%と比較して低い水準となっております。

また、平成31年調査から令和5年調査では、西成区における町会世帯数、町会加入率は
ともに低下傾向が続いており平成31年と令和5年を比較して町会加入世帯数は3,080世
帯、町会加入率は3.2%減少しておる状況となっております。

下の青い表の方をご覧くださいますと、加入世帯数ということで、平成31年調査では
23,372件だったところが、令和5年調査におきましては20,292件ということで年々減少
しておるところでございます。加入世帯数の横、町会加入率につきましても平成31年調査
では33.8%のところ、令和5年調査になりますと30.6%ということでこちらも年々低下
しておるところでございます。

右の図の方ですが、こちらの数値をグラフ化としておりますが、まず、折れ線グラフの
方ですね、上の赤色の折れ線グラフの方が大阪市平均の町会加入率となっておりまして、
下の緑色の折れ線グラフの方が西成区における町会加入率ということになっておりまして、
どちらも右肩下がりということで減ってきております。そのなかでもご覧いただきました
ように大阪市よりも西成区の方が加入率が低いというのが一目でわかるかなと思
います。オレンジ色の棒グラフにつきましても、西成区の加入世帯数ということでこちらも年々減
少しているということになっております。町会加入率の状況につきましても以上でござい
まして、つづきまして、外国籍住民の推移についてもご説明の方をさせていただきます。

【得能総務課長】

それでは西成区における外国人人口の推移につきまして、わたくしの方からご説明させ
ていただきます。

資料1の3をご覧ください。右肩に資料1の3と書いておりますものでございます。まず、
資料1の3の1ページ、「住民基本台帳による西成区全体人口の推移、及び、外国人人口
の推移」ということとございます。こちらの方は、平成27年3月末から令和7年3月末
の10年間の西成区全体人口の推移と外国人人口の推移を表した折れ線グラフになります。
西成区全体人口の推移は青い色のグラフになっておりまして、茶色のグラフが外国人人口
のグラフとなっております。

西成区全体人口につきましても左側の目盛り、外国人人口につきましても右側の目盛
りをご覧ください。まず、外国人人口で見ますと、令和7年3月末の西成区の外国人人
口は15,446人となっておりまして、これは平成27年3月末の6,692人と比べますと
8,754人の増、約2.3倍となっております。

次に、西成区全体人口で見ますと令和7年3月末の人口は104,685人になっておりま
して、これは平成27年3月末の110,006人と比べると5,321人の減、減少率としまして
は95.2%ということになっております。また、令和2年3月末から令和7年3月末の直
近5年間で申し上げますと、西成区全体人口は概ね105,000人前後、減少率でい

と 99.1%ということではほぼ横ばいの状態となっております。

次に、2 ページ目をご覧ください。こちらの方は、「西成区における国籍別外国人人口の推移」を表した折れ線グラフとなっております。グラフにつきましては令和 7 年 3 月末、一番右側ですね、令和 7 年 3 月末の国籍別外国人人口の多かった上位 7 か国・地域の平成 31 年 3 月末までの過去 6 年間でさかのぼった折れ線グラフということになります。

ここで 1 か所数字の訂正をお願いしたいんですけれども、一番右、令和 7 年 3 月末ですね、ベトナムの人口のところは 3,711 人となっておりますが、正しくは、3,771 人です。ちょっと 60 人ですね変わってきます。3,711 人のところを 3,771 人に訂正をさせていただきますようお願いいたします。申し訳ございません。

2 ページ目の表の分析結果で申し上げますと、韓国及び朝鮮、図でいいますと肌色の韓国及び朝鮮の方がゆるやかな減少傾向です。一方、ベトナムと中国がですね、それぞれ競い合うように右肩上がりになっておりまして、その下ですねピンク色のネパール、黒色のミャンマー、このあたりが増加傾向にあるということでございます。特に令和 4 年の 3 月末以降、この増加傾向が顕著（けんちょ）になっているという形になっております。また、フィリピンや台湾といった部分につきましてはゆるやかな増加傾向になっているという形になります。

次に、3 ページをご覧くださいと思います。3 ページの方はですね、平成 31 年 3 月末の状況と令和 7 年 3 月末の状況でですね、それぞれの時点での国籍別外国人人口の上位 7 か国・地域を円グラフで比較したものになります。

左が平成 31 年 3 月末で、右側が令和 7 年 3 月末になります。まず、この表ですね、人員数、人数の観点でみますと先ほどのコメントとも少しかぶりますが、中国とベトナムがそれぞれ約 2 倍になるなど、増加傾向が大きくなっています。一方で、韓国及び朝鮮はゆるやかな減少傾向になっている。また、人員の規模は比較的小さいながらもネパールとミャンマーがそれぞれ 15 倍を超える大幅な増加になっています。フィリピンと台湾は先ほども申し上げましたがゆるやかな増加傾向になっています。

次に、この表を構成比率の観点でみますと、令和 7 年 3 月末の上位 4 か国・地域であります中国、ベトナム、韓国及び朝鮮、ネパールの人口が平成 31 年 3 月末におきましても全体の大半を占めているという状況であります。個別にみますと、韓国及び朝鮮の比率で言いますとほぼ半減しているということで 44%が 20%と減っているということと、一方で、ネパール・ミャンマーの比率が急増しています。また、フィリピンと台湾につきましては比率的にもほぼ横ばいであるという形になります。

次に、4 ページをご覧ください。4 ページは、棒グラフが 2 つ並んでる表になります。

こちらの方は、「西成区における年齢別（5 歳刻み）外国人人口」を平成 27 年 3 月末と令和 7 年 3 月末で対比したものになります。向かって左側が、平成 27 年 3 月末、令和 7 年 3 月末が右側になっておりまして、10 年間で年齢別に見た外国人人口の変遷という表となっております。

こちらはですね、まず最初にご注意いただきたいのが、この 2 つの表はそれぞれ表の左側に目盛りを配置しておりますが、この目盛りの単位が異なっているということでございます。平成 27 年 3 月末につきましては 100 人単位の目盛りになっております。一方、

令和7年3月末のグラフで言いますと、500人単位が目盛りになっているという形になります。もし仮に、平成27年3月末の表を令和7年3月末の表と同じ基準で作成しますと棒グラフ全体が下から2つめの目盛り、つまり1,000人までの幅に収まってしまいまして、表として正確ではありますが非常に見づらいものとなってしまいますので、今回は表の見やすさを優先した結果双方目盛りの単位を変えさせていただいていることにご留意いただきたいと思います。

この表を人数の観点で見ますと、平成27年3月から令和7年3月までこの10年間で比較しますと20歳から34歳までの層で、6,500人近くが増加しているということです。とりわけ、20歳から29歳までで見ますと5,200人近く増加しています。一方55歳から74歳までの層では150人以上減少しているという状況になります。

次に、この表を構成比率の観点で見ますと20歳から34歳までの層がほぼ倍増しているということです。とりわけ、20歳から29歳までで言いますと倍以上増加しています。一方で、55歳から74歳までは、約2.5倍以上減少しているという状況になります。

最後に、5ページを見ていただきたいのですが、こちらの方ですね、平成31年3月末と令和7年3月末の2つの時点の「西成区における在留資格別外国人人口」ということの比較、対比させた円グラフになります。

平成31年3月末が左側で、令和7年3月末が右側となります。平成31年3月末では、特別永住者、留学、永住者、技術・人文知識・国際業務、家族滞在の順に多くなっておりまして、この5つの在留資格で全体の90%を占めています。

一方、令和7年3月末で申し上げますと、1番上が留学、2番目が特別永住者、3番目が技術・人文知識・国際業務、4番目が永住者、5番目が家族滞在の順で多くなっておりましてこの5つの在留資格で全体の80%を占めているという形です。平成31年3月末と令和7年3月末の対比でいいますと、一番多くなっているのが技術・人文知識・国際業務、その次に留学、で3つ目に家族滞在の順に多くなっています。特に技術・人文知識・国際業務、留学につきましては、それぞれ1,500人以上、大幅に増加をしているということでございます。

一方、特別永住者は607人減少しているという状況でございます。ちょっと長くなりましたが、わたくしからは以上でございます。

【北野市民協働課長】

引き続きまして市民協働課長の北野でございます。

こういった現状を踏まえまして、外国籍住民の地域活動への参加を促進する取組といたしまして、西成区では、外国籍住民向けに町会加入促進リーフレットの多言語版を作成しまして各連合に配布してご活用いただこうというふうに考えております。

資料の方は、先ほどの資料1の2を1枚めくっていただきますと、黄色いチラシになっておりますが、こちらが町会加入促進リーフレットになっております。下の方が裏面という形で両面のリーフレットで作成をしております。

これの多言語版ということで、もう1枚めくっていただきましたところ同じチラシを英語版という形で作成をしております。今後も韓国語、中国語、ベトナム語について作成をしていきまして、外国籍の方に町会加入促進ということでご案内をしていきたいと考えてお

ります。

また、市民局のダイバーシティ推進室におきまして、昨年度にモデル地域のひとつとして西成区の北津守地域において実施された取組がございますので、事例の方を紹介したいと思っております。

今の資料について、もう1枚めくってください。左上の方ですね、参加交流の取組事例ということで、その下タブがついておりまして、事例1から事例12ということになっておりますが、本日につきましては、この中から北津守地域の事例でいいますと5つあるんですけども、そのうちの3つご紹介をさせていただきたいと思っております。

まず、事例1はとばしまして、その次のページですね、事例2になります。「外国ルーツの家族がみこしに参加」ということで、背景としまして北津守では毎年夏にこどもみこしを実施しています。今年のはじめて、みこしの乗り手、担ぎ手の募集チラシを多言語化して外国にルーツをもつ児童とその保護者に参加を呼びかけることにしました。ということで、その結果といたしまして、一番下の取組の成果にありますように、はじめて外国にルーツのある児童2名がみこしの乗り手となり、保護者も参加され、交流ができたということになっております。

続きまして3枚目をご覧くださいと思います。事例の3つ目になりますが、「夏祭りに多文化要素を加える」ということで、毎年夏に開催される子どもカーニバルにおいて、こちらが多言語化したチラシを作成したということです。それから、中国人の方に中国語で場内アナウンスもしていただくなどの取組もされまして、成果としまして、多文化の雰囲気を感じられるお祭りになったということでございます。

続いて次のページの事例4をとばしまして、もうひとつ次のページの事例の5番目になります。「中国人住民が餅つき大会のチラシを翻訳」ということで、毎年冬に開催している餅つき大会のイベントのチラシの翻訳や広報を手伝ってもらったということで、その中国語のチラシを見て、地域の中国人の住民の方がたくさん参加され、また翻訳された中国人の方が町会の役員にもなってくれたという事例となっております。

事例の方は以上となりますけれども、外国にルーツを持つ方にとってはイベントをしていることは知っていてもどうすれば参加できるのかであったり、そもそも我々が参加できるのか、といった話もお聞きしますので、こういった多言語化した案内チラシも有効なのではないかなというふうに感じております。

また、そういったイベントに参加することによって、最後の事例にあったようにゆくゆくは町会役員の担い手にもつながっていけばいいなというふうに思っておるところでございます。

説明の方は以上となります。それでは身近なテーマである、この地域活動の担い手の確保につきまして、みなさまの活発な議論や意見交換の方お願いしたいと思いますのでよろしくお願いたします。

【小林議長】

はい。ありがとうございます。それでは委員のみなさまからいろいろとご意見をお聞きしたいと思っておりますが何かございますでしょうか。町会加入率でいくと萩之茶屋地域、要はあいりん地区が入ってくると一気にこう数字が変わってくるのかなというところを思う

ので地域別のを見てみたいなというところと、飛田とかやったらめっちゃくちや加入率高いですね。たぶんこの2地域がちょっと独特なので、こう西成区でまとめられると、あいりんが加入率の足を引っ張ってるのかなという気持ちがしてしまいました。

【上田委員】

上田です。こんにちは。大阪市さん、西成区さんが町会・自治会に多く入ってもらいたいっていうのはよくわかるんですけどもやはり、若い層にとってはですねこの地縁の、なんていうんですか、重たいというか、なかなか厳しいことが多いとかそういう感覚もあるのが事実で、そのなかでたとえばこども食堂であったりとか地域のボランティア活動をしている団体とか、また NPO 等ですね、地域づくりへの気持ちはあるという状態があると思うんですね。

そのため今、町会・自治会に入らなくてもこうしたまちづくりに関わっているようなことがですね、もっと見えてくることだったりとか、あるいは、ゆるやかなネットワークですね、こうした活動とは町会・自治会ともゆるやかなネットワークができるようなですね、もう少し、なんか広がりのあるまちづくりのような観点というのがもう少し組み入れてもいいのかなと思うんですね。

ですから、この資料の例えば1の2は町会とか自治会のことが紹介されているけれども、ここにプラス、こども食堂のことであったり地域づくりしている団体さんの記号が入っているとかそんなふうにしてですね、さまざまな層が関わることが西成では実際行われているので、それが見えると良いのじゃないのかなと思いました。

【小林議長】

ありがとうございます。みなさんほかにいかがでしょうか。

議論ですので、ぜひ上田さんのご意見に対しての感想でも構いませんので。今日、人数が少ないのでね。どうですか、みなさまのお住いの地域の町会は活発ですかね。私、最初この資料を区役所の方からいただいたときに、今の町会を担っている人たちにこの外国人の人たちを受け止める力があるのかどうかっていうのを、結構酷なことなのかなって思って、ねえ難しい。コミュニケーションもすごく難しくなると、こうやっぱり前回のにぎわい部会か全体部会でも言いましたけれど、今の町会の枠組み自体も少しちょっと疲労しているとか、いろいろと考えていった方がいいんじゃないのかなっていうのがこう、地域で暮らす一若者として思いますね。ぎりぎり若者として。

【上田委員】

私、別の自治体ですね、こうした案件に関わっているんですけども、もうほんとに、あの、町会・自治会ですね、このあまりにも重たいことが若い層には厳しくて、それならばというところで、例えば、社協さんとかが動かれてですね、ほんとに地縁組織ではないところの人たちとゆるやかにつながる形か仕組みをつくりたい。仕組みというほどでもないかな、つながりをつくりたいということで、改めてこう第三者が関わってくる、私は第三者の立場で入っていったりしていることがございます。そうすると、子どもたちがつながるためにだったら20代30代の忙しいけれども若い人たちがつながりたいということ

で、この活動ならつながりたい、とかっていうような場を細かく細かく作っていき、それを社協さんがつなぎながらですね、されている例なんかも実際関わりながら感じています。

また、私自身は西成区で町会のことですら実際問題、町会費を払ってくださって言いに行く係をしたことがあるんですけど、そこで地域の人たちの反応っていうのがダイレクトにあって「何してるかわからへん」とか「お金だけ集められて」とかっていう意見もあったり、確かに町会が何をしているのかわからないと思ひまして、おそらく活発にされている町会と、なにもされていない町会、なにもされてない中ではなかなかにも起こらない、より生活に根ざした活動が、さっきの繰り返しになりますが、町会だけではなくつながりが得られるような、それぞれこう認識できたらいいいのかなと思ったりします。

【小林議長】

ありがとうございます。ほかみなさんいかがでしょうか。伊藤委員とか、いかがですか何かご意見ないですか。庄野委員お願いします。

【庄野委員】

庄野です。先ほど「西成区における国籍別外国人」の推移をお教えいただいたのですが、いろんな国の方がお住いということのなかで、今現在、大阪市の公式LINEアプリが、大変素晴らしい、ここにLINEのこのQRコード書いていますけれども大変素晴らしい情報がたくさん詰まっております中で、ちょっと勉強不足なんですけれども、この外国の方、中国やベトナム、ネパール、ミャンマーとかいろいろあるんですけれども、どこまでの言語を、翻訳して載せられているのかなと思ひまして。

外国の方で日本語がわからない、情報が少なくなる、自治会に加入していただくにもそういう情報を自分の目から見て「あ、ええな」と思ひ入っていただくのもひとつやと思ひますんでね、できたらその大変費用もかかるかもわかりませんが、多くの国の言葉で公式LINEアプリを見れるようにしていただけたらと思ひますけど、現状今何カ国語くらいされてるんですかね。もし分かれば教えてください。

【得能総務課長】

えっと、すいません公式LINEアプリ。

【庄野委員】

または、西成区の区政だよりの方でいいですけど。

【得能総務課長】

ちょっと、観点がずれるかもしれないんですけど、今、西成区役所の方で1階にですね、フロアの案内のチラシを置いておひまして、それで申し上げますと、日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語の5つでご案内させていただいて、外国語で言ひますと、英・中・韓・ベトナムと4か国ですね。

【庄野委員】

ちょっとどこの国が、ミャンマーの方が何語を使うかわからないんですけど、まあそういった方の人口が増えているってことでね、もしもそういった情報が得られる機会を設けていただけたらと思います。

【小林議長】

はい。ありがとうございます。伊藤委員お願いいたします。

【伊藤委員】

伊藤です。先ほど、上田さんがおっしゃっていたとおりだと思ったんですけども、大阪市内とは住まいは違うんですけども、ほんとになんとか自治会に入って、なんとなく半年に1回集金に來られて、実際、何に使われているのかもよくわからないまま支払っているっていうところで、もうほんとにたぶん辞めてもいいのかなって思いながらもなんとなく、近所の方が來られたら支払っているっていう状況でして、すごく立派なパンフレット作ってらっしゃると思うんですけど、これ読んでも正直「だから？」っていうふうに思って、せっかく作るのであれば「なんか、入りたいな。会費払ってでも入りたいな。」って思ってもらえるようにもう少し工夫されてもいいのかな。イベントとかもたくさんされているみたいだったら、例えばちょっと楽しそうな雰囲気の写真ですとか内容とかを載せて、自治会とは離れるかもしれないけど、加入していただければみたいなの、もう少しやり方があってもいいのかなと思いました。

特に英語版の方、さらに見てみるともっと文字だけですし、ほとんどが読んでいても分かるような、分からないようなみたいなの、正直そういうところが外国の方はもっと多分、自治会っていうのはあんまり外国には無いので、ちょっとそれをこう興味を持ってもらうにはちょっと難しいのではないのかなとは思いました。感想です。

【小林議長】

ありがとうございます。比較的、僕らそこに近いところにいるけど、あまり見えてこないですよ。高橋委員、何かございますか。

【高橋委員】

今日の議題は、外国人が西成区においてっていう大体見てきましたけども、中国人が圧倒的に事業が發展、西成区で發展遂げてますと。だけどそれを嫌う人もおられると。様々な考え方があるとは思いますが、いかに共存、共栄っていう事が一番大事やと。ところでこの共存、共栄のグラフを作っていた方は大変素晴らしいなと思います。

中国人もベトナム人も後の外国人も、結婚されているわけですね。これで問題が起きないかなという問題も発生するのかなと思いますけども、これをいかに西成区の区民が、我々がどうやって彼らを一体化となって西成を盛り上げるかという問題に發展していかなければならないと私は思いますけれども。

その以前、我々は何ができるかっていうより、我々が例えば今、中国が大使館に対し領事館に対してね、西成区をこうやってサポートしていきたいと、じゃあ、中

国人の住民とか色んな部分で何か共存、共栄、何か催しちょっと協力をお願いできない、反対言うたらそっちの方で、我々自身が領事館に対してね、1回コンセンサスを持って話を聞いていっていただくことが僕は大事じゃないかということですけども。

ベトナムにしてもそうだし、そういうところが我々の声掛けをね、やっぱり西成区に中国大使館、ベトナム大使館、ネパールかな、そういう外国の方とのね、コミュニティが作れないのかという問題にかかってくると思うんでね。

これだけ増えてきた以上は、そこで我々どうやってどういうかたちで考えて、後は議長がお任せしてね、何かとそれを取り持って、西成区はそういうインターナショナルの部分のまちづくりをね、お願いできないかっていうのを私のお願いですけども、よろしくお願ひします。

【小林議長】

ありがとうございます。この前の参議院選挙でも、大阪というよりは地方で外国人に対してどうしていくかみたいな議論がすごく進んでいる中で、私の知る限り、西成ではそこまで大きなうねりみたいなものはなかったですよ、日本人ファースト的な発言に対して。私の知り合いでもやっぱり外国籍の人が、自分がお店をやっている場所(土地)を買い占めて、いわゆる地上げに会う人もいる中で、住んで生活している外国籍の方もいれば、ただただ民泊をつくるだけとか、そういう商売しかしていない方もいらっしゃる外国人としても一くりにするのは、かなり難しいなと思っていて。

西成区では北西部が主にですけど、半世紀ぐらい前に在日の方が韓国人・朝鮮人の方がどっと入ってきた地域の中で、その頃を生きていた方に話を聞いても、その頃の一番の共存共栄っていうのは、子育てがきっかけで同じ学校で、その中でいろんないじめとかもあったんでしょけども。

同じ学校に行きながら親も一緒に変わっていくみたいな機会ってすごくあったと思うんですけど、今、子育ては子どもの数も減ってきている中で、そのポイントもすごく難しくなってきたのかなと。しかも今学校が選べるようになっちゃったので、その住んでいるところが必ずしも最寄りの学校でもなかったりするんで、そういったところもまた共存共栄の道が昔とまた違ってやりづらくなってきたしまっているのかなと個人的には思っていたりはします。

この人口の減少を見ていると、西成区は99.1%でしたっけ。ということで、ほか23区と比べた場合、これはかなり良い方に入る気がするんですけど、そんなことないんですかね99.1%を維持しているというのは。

【得能総務課長】

24区で言いますと10万5,000人ということで、だいたい真ん中より少し下くらいかなとは思っています。

【小林議長】

直近5年くらいの減少率はどれくらいですか。

【得能総務課長】

西成区の人口は、ここ数年 10 万 5,000 人前後ですので、ほぼ横ばいで推移しています。

【小林議長】

じゃあ他のところはもっと増えている地域もたくさんあるって感じなんですかね。

【得能総務課長】

中心区だとタワーマンションができていまして、400～500 人オーダーで 1 個 1 個できますので、そういうところは多分 11～12 万人になっているところもあるのかなと思います。

【小林議長】

上田委員お願いします。

【上田委員】

先ほど英語のチラシのお話をされていたんですけど、確かに外国の方がこの文字たくさんチラシを紹介をされても、きっとあまりよくわからないと思うんですね。こちらのチラシが区役所の市民協働課さんの予算で、作られているのは重々わかりながらも、せっかくこういう外国の人に向けて西成区のことを紹介しようと思ったら、外国の人にとって有益な情報、例えば病気になった時はどこに連絡したらいいとか、子どものことで相談したい時はどこがいいとか、外国の人たちのコミュニティの場所がここにあるよといったようなですね。あるいは年に一回、西成区では多文化共生フェスティバルをしてますよとか、そうした様々な情報がもうちょっと一元化されるようなですね、広報物があって、そしてその中にも町会という機能もあるよというような紹介がされててもいいのかな、なんて思いました。

本当に文化が違う中で、こうした広報物っていうか、情報ツールを作るのは難しいと思うんですけども、きっと西成区が人口が数年前までは減りますよっていう危機的な警鐘が鳴らされてたのが 99.1%でとまっているというのは、外国の人が来てくださっているからだと思うので、今後もそれは期待されることですし、ここで家族を持たれたりしていくと、ここで一緒に根ざして暮らしていくことになると思うので、なるべく早く情報を外国人の方にお伝えできるテクニックを鍛えていく必要があるのではないかと思います。

【小林議長】

ありがとうございます。宮本委員は何かご意見ございますか。

【宮本委員】

私が今一番心配しているのは民泊の問題で、住んでいるまわりにもかなりの民泊がありまして、万博が終了した後の民泊のことが一番心配です。中国の方とかが民泊を経営している人が多いと思うのでどうなるのかが心配です。ポツンポツンとあるのではなく長屋みたいになっているところがすべて民泊に変わっているので、そういうところは通りたくないみたいな感じがあります。

それと今後の西成の一番良いところは、テニスコートからコンサートホールまでの一角の使い方だと思うんですけど、これがなかなか進んでいないようで、どのような方向でやっていくのか、まだわかっていないようなので。

我々、障がい者の立場から、盲養護老人ホームといいまして、盲人の老人ホームですね。大阪市はないんですよ。政令指定都市の中で大阪市だけないんですよ。もっと早くからそういうことを要求したら良かったのかなと思いますけど。今は財政不足の折ですから難しいのかなとは思っておりますけど。

万博が思いのほか観光客の方が入っていますし、もう少し西成にお金を落とさせていただいて。やっぱり商店街が元気がないので、外国の方を呼び込むような何かをやったらいいのではないかと思います。

【小林議長】

ありがとうございます。まだお時間ありまして、議論できるんですけど。私が所属している釜ヶ崎支援機構の活動を少しご紹介できたと思うんですけど。いわゆるあいりん地域でやっぱりかなりの方がよそからやってきた方が多い。しかも大人になってからやって来た、かつ独身で男性の方が多地域になるんですけども。

こういった方というのは基本的に地域に属するというのは子育てをしない限りなかなか難しい中で、単身の高齢の男性ともなれば町会にそこでぽつんと1人で入ることにはそうそうなかったりするんですけども、若者もそれなりに関わってたりするんですけども、釜ヶ崎支援機構では近隣地域の自治会などと一緒に手を組んで、やっぱり各町会も高齢化していて、例えば公園の掃除とかで働き手が足りないとなったときに、釜ヶ崎支援機構で関わっている若年層であったり、高齢の方もいらっしゃるが、いわゆる生活困窮者であったりとか、このまちにやってきて生活保護を受けている方と一緒に自治会の活動をお手伝いをしに行き、公園の草抜き、ごみ掃除をするとか、あとはイベント（町会のお祭り）のお手伝いをするなどして、地域とつながる機会を作っています。

これはこの地域独特の関わり方かなと思っております、それで素直に自治会の方も喜んでくれますし、行った時にはお菓子やジュースをいっぱい買ってきて「みんなこれ食べや、ありがとうな」みたいな感じで受け入れてくれますし、横からやってきて、いろいろあって孤立している人たちもすごく温かい人とそういう関わりはなかなか大人になってから作ることはできないので、そういう機会を作れるのですごく良いきっかけだなと思っております。

そういうのを積極的に開いてくれる自治会もあれば、閉鎖的な自治会もあるかなというふうに思っていて、閉鎖的なところに関しては、やめときましょう。だからやっぱり自治会というか町会の仕組みも考え直すべきだというのは私の意見であるんですけども。

例えば、私がどこかの町会に入ってそこで一定の自己実現をするために、多分それの下積みをしないと無理だったりするわけで、「それやったらもういいよ」という気持ちになるのが若者も多いと思うんですよ。

かといって、ぽっと出の若い子らに振り回されるのも嫌やというのももちろんわかるんですけど、そこがうまいこといかへんから新しく作っていくというのも1つの選択肢として、少し過激な発言にはなってしまうんですけど、合理的な考えでありなのかなと思っております。

しまいます。他は皆さんご意見いかがですか。あと5分くらいは喋った方がいいんですけど。

【上田委員】

はい、今日のテーマ地域活動の新たな担い手の確保ということで、上田、今日はよく喋ります。やっぱり新たな担い手ということで子どもたちだと思っんですね。ですから、子どもたちの出番が、たくさんあるような企画をですね、大人達が準備していきたいと思っんですね。

お祭りでもいいと思っし、何かその外国人を案内するでもいいし、そうしたチャレンジですね、西成区ぜひやっていきたいと思っします。

【稲嶺区長】

私の立場はできるだけご意見頂戴するということなんですけど、といいつつ寄せられる意見の中、今、上田さんがおっしゃた子どもたちが参加するということは私的にはしてみたいところなんです。今、実は、小学校、中学校で、「町会ってなあに？」という冊子を配って学校の時間内に、それを教材にしてるんです。やっぱり小さい頃からそういう町会組織のことわからないと、いきなり大人になって、さあ入りましようってなってもよくわかりませんと、忙しいですから無理、こうなるんですけども。

これとある区で実際やってる区あるんですけども、先ほど色んなお祭りありますね、餅つき大会や夏祭り、そういったところに中学生を地域の行事に派遣してそこでスタッフとして担ってもらうことによって若いうちから、お客さんじゃなくて主催者側として活躍してみる、入ってみるといっ経験がすごくわかりやすいんです。

なぜこんなことやってるのか、大人達が、大変な思いをしてやっている事がわかるし、子どもたちにこんな形で還元しているんだなど、そこから町会の大事さといっか、意味合いといっものをつかんでもらえと、そこから大人になって、じゃあ、町会いよいよ入るかとなったときに、非常にハードルが低いといっますかね、「昔そんなんやってたよね？」そしたら入れると、ところがいい大人になって、地域の方々から「町会入りませんか？」といっわれても、なにやっているか分からへんしなんでやらなあかんかわかりません。といっ形になるので。

まずは実際やってもらって、そういう機会を作って、そこから「なんでうちの町会入ってないの？町会入っているとお互い助け合えるよ」とか「認知症なっても見つけてくれるかもわからんね？登下校見守ってくれていたよね。」とそこから入るといっことかと、だから私は町会のメリットはなんですかと聞かれたらいざといっ時に命が助かる、普段の暮らしが認知症なっても地域で暮らせる、この2つをかなりのところで、実現して頂けるのが、一月何百円の世界で、実現してできるんですよね。だから極めてお得なところでも、一部の人だけが入っているだけでは、なかなか実現しないので、多くの人を巻き込んできたらいいなとそれとやはり、緩やかにつながるって大事ですわ、

いろんなテーマで緩やかにつながっていくことで、やっぱりお互い助け合いだとか、居場所づくりだとかできるので、今までの従来のメニューの少なさでは多くの方に入ってもらえなくて、メニューを増やしたり、それぞれの活動あってもいいよねと、この地域にあ

るんだからっていう西成、包摂力ある所ということですね。

そういった広めに窓口を広めていく、ハードルを下げることも大事なかと今日のお話を聞いて分かりました。それから外国の方、言うてもどんどん来はりますし、やっぱり地域の力になってもらわないと、向こう側にいてるややこしい人というとらえ方では、とても成り立たないので、やっぱり内側に引き込んで、主催者側で活躍してもらおうと。

例えばこないだ、生根神社でお祭りがありまして、だいがくを担いではるんですね、今日も宮司さん来ましたけども、やっぱり担い手不足というものはお祭りでもそうなんです。

例えば、外国の方という切り口もあるやろうし、学生さんという切り口もあるやろうし、そういうところにも広げていくことによって、何か一人でやると歴史的な意味合いや、文化的な意味合いだとか、日常的な意味合いもわかってくるので、そこからスタートしてもいいのかなと。

後は防災ですね、西成はやはり、土地が低い所もありますので、津波が来ると一部地域しんどいところもありますので、木造家屋も多いので、グラッとくると倒壊する可能性もあるし、火事になる可能性も高いので、やっぱり防災力っていうのと地域力上げていかないとなかなか、役所がいつてもなんとかなるものではなし、消防自動車が入れない所、結構あったりするし。

僕は、やっぱり命を守る防災をしていくためには、いろんな団体、町会中心かもわからない、それ以外 NPO も大事かもわかりませんので、そのあたりが連携とって、地域の絆づくりといいますかつながりづくり進められたらなと思っています。今日のご意見をいただきながら、またそれぞれの地域で活動している団体とも連携しながら進められたらなと、改めて感じた次第です。はい私からは以上です。

【小林議長】

区長ありがとうございます。いかがでしょうか。ちなみに、この連町の区割りみたいなものがあると思うんですけど、人口は昔に比べたら減っては来ているなかで、この区割りみたいなものはこれからも維持されていくものなんですか。例えば合併であったりだとか、むしろ人が減ってるんだからそれは妥当な判断だととらえられるんですが、どうですかね。

【北野市民協働課長】

はい、市民協働課長の北野です。

それぞれの町会につきましては、それぞれ昔からの取組もあると思うので、なかなか、人が減ってきて、担い手がなくて大変、だからどこかと引っついてということもあろうかと思うんですけども、昔から使ってきた方法、地域の取組だったりだとか、どこかと引っついてということは、みなさん積極的ではないかなと思われるなかだと思ってしまうんですけども。

ある地域においては、人口がどんどん減って行っているというところも現状出てきている状況なので、そういうところも必要かなというふうに考えておりますが、積極的に役所が動くというところにはならないので、というふうに思います。ありがとうございます。

【小林議長】

はい、ありがとうございます。実は分かった上でご質問させていただきました。残されている時間はあるので喋れるのですが、なければ次の議題に進みたいのですが、委員の皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、続きまして議題2の令和7年度西成区運営方針について事務局より説明をお願いいたします。

【得能総務課長】

総務課長の得能でございます。

私の方より、議題の2の令和7年度西成区運営方針の取組についてのご説明をさせていただきます。お配りさせていただいております、資料2の1の1ページをご覧ください。

こちらの方の上段にですね、目標、使命、及び運営方針の基本的な考え方という事で記載させていただいております。

目標といたしましては、「すべてはこどもたちのために」をキャッチフレーズに、人と人とのつながりを大切に、みんなが笑顔で暮らしやすいまちをめざすとしております。

次に、令和7年度所属運営の基本的な考え方といたしましては、若い人や子育て世代を呼び込み、活力あるまちをつくるため、①子どもの夢がひろがるまち、②人と人とがつながりにぎわうまち、③みんなが安心してくらするまちを3本柱といたしまして政策を進めていくとしております。このうち、にぎわい部会は、②人と人とがつながりにぎわうまちの担当となります。

次に、2ページの上段ですね、こちらの方にですね、経営課題②人と人とがつながりにぎわうまちとなっております。令和7年度予算で申し上げますと、6つの事業で、計1億2,000万となっております。

まず、主な戦略といたしましては、(1)住みたいまち、行ってみたいまちにする、(2)地域の活動を支えて、つながりをつくる、(3)誰もが活躍して輝けるまちにする、の3つでございます。次に、経営課題の進捗度合を示したアウトカム指標につきましては、6月20日に開催いたしました、第1回にぎわい部会の際に新たなアウトカム指標といたしましてご議論いただきました。2つの指標を記載させていただいております。この表の中です、二重線で囲われた箇所をご覧ください。こちらに2つのアウトカム指標を掲載させていただいております。まず1つ目がですね、西成区文化観光振興事業の情報発信や西成区の魅力について掲載している、西成区ホームページ観光歴史における閲覧数を、前年度以上にするということでございます。

続きまして2つ目が、地域福祉フォーラム参加者へのアンケートでこのフォーラムが、身近な地域で、見守りや助け合いなどのつながりづくりに、役に立つと思うと回答する割合を令和9年度までに、89%とすること。そして、令和7年度で74%とすることでございます。

なお、前回開催の部会の中でも、少しふれましたが、今回、3つの部会全てにおきまして、区民アンケートに基づく従来のアウトカム指標を修正し、新たなアウトカム指標に設定しなおしております。今後9月に開催予定の令和7年度西成区区政会議、第1回全体会の場でご確認いただけたら、新たなアウトカム指標として更新してまいりたいと考えております。

次に、資料2の2をご覧ください。こちらの方が、令和7年度西成区運営方針における具体的取組を記載しております。にぎわい部会におきましては、先ほど若干ふれましたが、計6事業となっております。

それでは、この6つの事業の中から、本日は、西成区文化観光振興事業と西成区地域福祉推進事業につきまして、それぞれ担当課長の方からご説明させていただきます。よろしく申し上げます。それでは、西成区文化観光振興事業につきまして説明させていただきます。

【式地総合企画課長】

みなさんこんにちは、総合企画課長の式地でございます。よろしく申し上げます。着座にて失礼いたします。

私の方から、西成区文化観光振興事業について、ご説明させていただきます。資料4ページをご覧くださいと思います。

この事業は、西成区の歴史、文化等をいかしてにぎわいを創出するとともに、広く情報発信することで、区民の方の西成区の愛着を深め、区外の方にも魅力を感じていただく取組をすることを目的にしています。

今年度の取組でございますけども、記載しております4つの取組を主に進めてございます。まず、当区と包括連携協定を締結しております、大阪フィルハーモニー協会様と音楽活動を通じた取組でございます。取組といたしましては、区内小学校、中学校に出向きまして、出前授業というものをやっております、楽団員によりますプロの生演奏、楽団員さんがプロになるまでの経験談などをお話しいただくとか、楽器の魅力を伝えますとか、ワークショップを開いて、そういうものを開催していただいているというものでございます。

それとですね、区内在住の小学校4年生～高校生と保護者を対象といたしまして、大阪フィルハーモニー協会さんのご協力を得まして、無料の西成オーケストラ鑑賞会を2025年9月13日に開催予定でございます。

また、昨年度も好評でした、区役所1階の区民ロビーで開催いたしましたクリスマスロビーコンサートを本年も12月頃開催を予定しております。次に右側の芸術文化活動を通じたにぎわい創出のイベント開催の取組でございます。もと今宮小学校を活動拠点といたしまして、もと小学校に残ります、陶芸とか廃材、倉庫などを利用しまして、アートを媒介とした新たな出会いや、出来事などの関係性を通じまして、地域づくりや人材育成を目的とした活動をですね、月に1、2回程度でございますが、実施しております。

また、11月にはですね、この通常の活動に加えまして、芸術家の方に参加いただきまして、屋台の出店なども交えた、「ちょちょヴァナ2025秋」というものの開催も予定しております。

続きまして左下にあります、小、中学生向けの職業体験イベントについてです。このイベントはですね、大阪府中小企業家同友会さんと連携いたしまして、地元企業にブースを出展していただき、小学生、中学生を対象に地元企業の仕事を知ってもらう、体験してもらうことで、働くことの大切さや、面白さを感じていただき、地元を誇りと愛着を持っていただくということも目的として、今年度も、西成しごと博物館として、11月9日開催を

予定しております。

最後に右下にあります、新今宮エリア魅力向上イベントの支援でございます。この新今宮エリアの魅力向上に向けて設立をされました、新今宮エリア魅力向上有限責任者事業組合さん LLP と呼んでおりますが、ここが中心となりまして、民間主体の取組といたしまして、このエリアの魅力を伝えます、まち歩きと新今宮スタディツアーというものの実施します。そのほか、昨年度に引き続き、今年度は、10月26日に開催を予定しておりますが、「新今宮ワンダーランド2025」と題した、魅力発信イベントの開催に向けまして、引き続き区役所としても支援してまいりたいと考えております。当取組につきましては以上でございます。

【得能総務課長】

ありがとうございます。それでは続きまして、地域福祉推進事業につきまして、ご説明させていただきます。

【横山福祉担当課長】

福祉担当課長の横山です。どうぞよろしくお願いいいたします。着座させていただきます。

私の方から西成区地域福祉推進事業についてご説明させていただきます。目的といたしまして、地域で暮らす住民同士がつながりを持ち、支え合える地域づくりをめざしております。

令和7年度の取組内容でございますが、ボッチャにつきましては住民同士の自主的な活動が活発化し、eスポーツは男性の参加率が高く、共に地域行事の参加促進に有効な活動であると考えられるため、引き続き世代間や地域間の交流の活性化に取り組みます。

次に、個別避難計画の作成ですが、令和8年度までに累計300件の作成に向けて継続して取り組みます。次に、地域福祉フォーラムの開催ですが、昨年の開催において、関心が多かった、多文化共生をテーマに、引き続き取組を行います。進捗の状況になりますが、ボッチャですが、今年度もボッチャ大会開催に向けて調整をしております。1月中下旬の開催に向けて調整中であり、子どものボッチャチームの大会参加に向けて、子育て関連施設と連携して調整中でございます。子どもが参加できるように土曜日での開催を検討しております。

eスポーツは老人福祉センターでの開催を中心に実施しまして、希望のある地域に出向き体験会を実施する予定でございます。現在3地域での体験会の実施に向けて調整中でございます。ボッチャやeスポーツについては、楽しく参加できる地域活動として定着しつつありますので、地域活動への参加促進に向けて引き続き取組を行ってまいります。次に、個別避難計画の作成ですが、令和6年度までの累計で227件の作成となっておりますので、令和8年度までに累計300件の作成に向けて継続して取組を行ってまいります。

次に地域フォーラムですが、多文化共生に関する内容をテーマに、今年につきましては11月末頃の開催に向けて調整しております。内容については以上となります。

【得能総務課長】

議題2の令和7年度、西成区運営方針につきましては、以上となります。どうぞよろし

くお願いします。

【小林議長】

はい、ありがとうございます。委員の皆様、ご意見ございますでしょうか。前回の経営課題2のアウトカムに関しましてもよろしいでしょうか。ないようでしたら、進めさせていただきます。区役所から提案のありました議題は以上となります。

続きましてその他といたしまして、事務局からなにかございますでしょうか。

【得能総務課長】

特にありません。

【小林議長】

それでは長時間にわたりご協力ありがとうございました。それでは事務局にお返しします、お疲れ様でした。

【森区政推進担当課長代理】

小林議長どうもありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。

それでは私から数点ご連絡させていただきます。

本日の議事録につきましては、概ね30日後を目途に区ホームページに掲載させていただきます。よろしく願いいたします。

資料の中に意見票をおつけしております。なにかご意見等ございましたら8月4日までにご提出いただきますようお願いいたします。

次回の区政会議は、全委員ご参加いただきます、全体会を9月2日火曜日14時から予定しております。また、文書でご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員の皆様には、本日、区政会議に関するアンケート3種類を机の上に置かせていただいています。全体会用、部会用、こちらにつきましては24区共通で実施するものとなっております。区政会議委員評価シートにつきましては西成区独自で作成したシートでございます。本日お持ち帰りいただきまして、ご記入いただき、提出についてご協力をお願いいたします。

それでは以上を持ちまして、第2回にぎわい部会を終了いたします。皆さま、長時間にわたりご協力いただきましてありがとうございました。